

第4テーマ

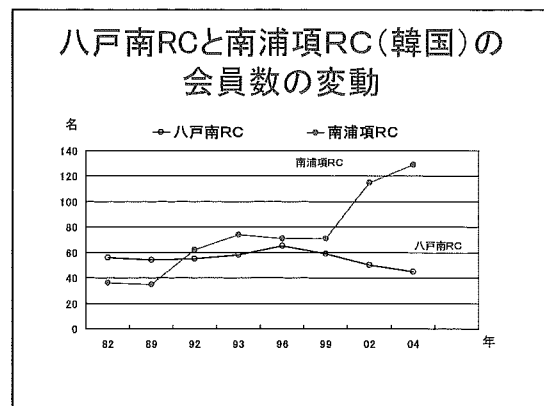
魅力あるクラブ（個性的で、未来を作るクラブ）

黒田 正宏（八戸南）

八戸南クラブの黒田です。どうぞよろしくお願い致します。

この分科会のテーマ「魅力あるクラブ：個性的で、未来を作るクラブ」は内容が広くて、さまざまな角度から検討することが可能です。

しかし、時間は限られていますし、抽象的な内容で終わっては意味がありません。私はできるだけ具体的な事例や資料に基づいて述べます。



私が所属する2830地区八戸南クラブと、私達のツインクラブである韓国の3630地区南浦項クラブの、ツインクラブ締結後の19年間にわたる会員数の変動をみたものです。

八戸南クラブは8年前の65名をピークにして、次第に減少を続けてきました。現在は45名です。この減少傾向は日本全体の減少傾向とほぼ同じです。ところが韓国の南浦項クラブは八戸南クラブを追い越し、IMF経済危機の時に一時、伸びが止まりましたが、そのIMF危機を乗り越えてからは増強を続けて現在は129名です。会員数の増加のみが、クラブの活力を示す訳ではありませんが、会員数の減少傾向が8年間も続くことは、何か問題点があると受け取るべきだと思います。単なる会員数の比較のみでなく、八戸南クラブと南浦項クラブの総合的な活力について



は、後ほど説明します。

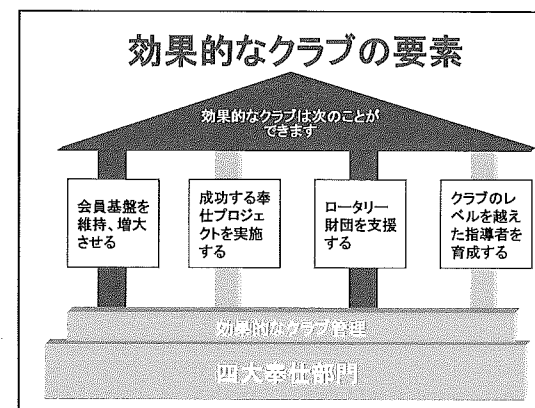
なぜ皆さんは地元のロータリー・クラブに入会すべきなのでしょう

- ・ 善良な市民
- ・ 会員の多様性
- ・ 道徳的な環境(四つのテスト)
- ・ 会員の友情
- ・ 家族の参加
- ・ 奉仕の機会
- ・ 指導力開発
- ・ 専門職の連絡網
- ・ 親睦活動
- ・ 国際的な認識

これは国際ロータリーによる会員勧誘の資料です。日本語に訳され国際ロータリーのホーム・ページにあります。タイトルは「なぜ、皆さんは地元のロータリー・クラブに入会すべきなのでしょう」というものです。全体でも1,200字強の説明文です。小さい見出しを並べてみました。それぞれに、さらに分かりやすい説明がついています。

つまり、会員の説明として、「善良な市民」、「専門職の連絡網」、「会員の多様性」、「道徳的な環境」(4つのテスト)などが含まれています。

次に、「会員の友情」、「親睦活動」、「家族の参加」が説明されています。さらに「奉仕の機会」、「国際的な認識」に、「指導力開発」も加えられています。これらの内容を見ると、私達は会員を勧誘する時に、すでに親睦と奉仕、道徳的な環境、会員の多様性など、ロータリーの原理を理解しているはずで、つまり、国際ロータリーがロータリーの原理を決して軽視している訳ではなく、最近の日本では、ロータリアンが、これらのことを新会員にきちんと説明していない場合もあるのではないのでしょうか。



次は、国際ロータリーの研修リーダーが、GETSや国際協議会でDGEによく説明するスライドです。それは、国際ロータリーで示している「効果的なロータリー・クラブの4本の柱」です。1. 会員の基盤を維持、増大させる。2. 地域社会ならびに他の国の地域社会のニーズに取り組むプロジェクトを実施、成功させる。3. プログラムへの参加ならびに財政への貢献を通じて、ロータリー財団を支援する。4. クラブレベ

- 会員基盤を維持、増大させるということは、単に会員数増加をさすのではなく、クラブの組織強化、会員の質の上昇を言う。
- ロータリー財団を支援するとは、2000年に改訂：「ロータリー財団の使命は、地域レベル、全国レベル、国際レベルの人道的、教育的、文化交流プログラムを通じて……」

ルを越えてロータリーで奉仕できる指導者を育成するなどです。これらは実践的内容です。

1の内容は単に会員数を増加させるという意味ではなく、クラブの組織強化と会員の質の上昇を意味しています。

3のロータリー財団については、皆様がすでにご存知のように、2002年にロータリー財団の使命が改訂され、国際的活動に新しく、地域レベル、全国レベルの活動を加えることによって、ロータリー財団活動の基盤と範囲がさらに広がりました。

「効果的なロータリー・クラブを計画するための指針」

クラブ会長は、年度を通じてこの指針を使用し、クラブの進捗を測るのに役立てる。また、ガバナー補佐やガバナーがクラブ訪問の際には、一緒に検討する。

以上のことは国際ロータリーの資料「地区ガバナー要覧」や「クラブ会長要覧」の中に「効果的なロータリー・クラブを計画するための指針」として記されております。そして、クラブ会長がその内容に疑問が生じた場合は、ガバナー補佐あるいはDGに指導をあおぐよう記されています。

ガバナー補佐によるクラブ訪問やDGによる会長・幹事面談やクラブ公式訪問で、このことがきちんと実行されているのでしょうか？ガバナー補佐の活用が十分に行われているのでしょうか？国際ロータリーの基本はロータリー・クラブであり、クラブは会長のリーダーシップのもとに、会員一人ひとりによって構成されていますが、その会員一人ひとりが責務を自覚し、問題意識をもって奉仕プログラムに参加しているのでしょうか？

ここで思い出すことは、1999-2000年度のRI会長カルロ・ラビツアが、21世紀への準備としてRIテーマを示すと共に、ロータリー2000の5つの目標を示しました。それは1.職業倫理を固く守ること。2. 会員の質的強化。3. すべての会員がまことのロータリアンへ。4. クラブに親睦と奉仕の統合精神を徹底させる。5. 寛容、謙虚、連帯の態度を養うことなどです。

日本のロータリアンは、最近これらのことを例会などで強く訴えることを遠慮しているのではないのでしょうか。

2000-01年度RIテーマ

- ・フランク・デブリンRI会長
「意識を喚起し—進んで行動を」

次の2000-01年度のRI会長フランク・デブリンは「意識を喚起し—進んで行動を」をRIテーマとしました。これらのRIテーマに従って、私達日本のロータリアンも努力してきたつもりですが、私達は、日本の社会の激変に押し流され、気持ちのゆとりがなく、「魅力あるクラブづくり」が思うように出来なかったと考えられます。

配偶者や家族からの回答

1. 自分の配偶者や親が会員であったことを誇りに感じている。
2. 費用がかかりすぎる。
3. ロータリークラブの活動にあまりにも多くの時間を奪われた。

(RIIによる2001-02年度日本人退会者のアンケート調査)

ことが求められているというのです。組織や個人が、それぞれの価値観で、自立性を活かして、生き残るための「自己スタイル」をつくること、つまり、「自分の構造改革」ができるかどうかが問われているのです。

同じ統計によると、「世の中は確実に進歩している」と感じている国民の割合は次第に減少しています。90年代は「失われた10年」と言われています。さまざまなものが活力を失いました。日本のロータリー・クラブも同じような変化に直面していると思います。

ロータリアンの「欲求」

- ・ポール・ハリスの出发点
「温かい心のふれあい」
「親睦」
「寛容さ」
「奉仕」

しかし、古きものの「崩壊」のあとは、必ず新しい何かの「創生」があるはずですが、そのためには、「ロータリアンとして、自分自身がどのような欲求を持っているか」をふり返ることが、「わたしにとって自分らしさ」を手に入れる原点になると思います。ロータリアンの「欲求」は、ポール・ハリスの出发点だと思います。つまり、「温かい心のふれあい」、「親睦」、「寛容さ」、それに「奉仕」です。

ロータリー2000の目標

1. 職業倫理を固く守ること。
2. 会員の質的強化。
3. すべての会員がまことのロータリアンへ。
4. クラブに親睦と奉仕の統合精神を徹底。
5. 寛容、謙虚、連帯の態度を養う。

しかし、行政や企業ではできない社会サービスを提供する新たな担い手としてNPO法人の数が急に増加していることも記されています。

これは、日本の私達国民一人ひとりが立ち上がろうとしているのだと思います。私達ロータリアンも親睦と共に奉仕活動を実践しています。地域から見ると、ロータリー・クラブの存在意義はむしろ増加しているはずですが、その広報が十分にはされておられません。

「こんなに変わった！日本人の欲求」

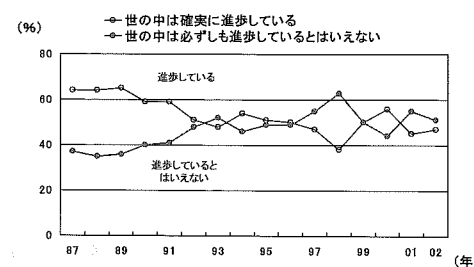
リサーチ・アンド・ディベロップメント編 毎日新聞社発行

- ・90年代後半に日本人は「意識の大転換」を行う。
- ・組織や個人が、それぞれの価値観で、自立性を活かして、生き残るための「自己スタイル」をつくる。
- ・「自分の構造改革」を行う。

また、2003年7月発行、リサーチ・アンド・ディベロップメント編集による「こんなに変わった！日本人の欲求」によると、90年代後半に日本人は「意識の大転換」を行ったというデータがまとめられています。つまり、国や企業のみならず、私達国民一人ひとりが、「構造改革」を求められているということです。もはや、「何が正解で、何が間違いか」という外的な基準が無くなったということです。そのために私達は過去の成功体験や伝統的な組織、システムにとらわれず、新しい状況に創造的に対応して、変化する

「こんなに変わった！日本人の欲求」

リサーチ・アンド・ディベロップメント編 毎日新聞社発行



「成功するNPO・失敗するNPO」 “現在の日本の社会的な課題”

- ・ 少子高齢化社会の到来
- ・ 不登校生徒の増加
- ・ 働くお母さんの増大
- ・ 在日外国人労働者の増加
- ・ 経済発展と環境保全の調和
- ・ 循環型社会の構築
- ・ 安全な食品の提供
- ・ 中心市街地の空洞化など

著者：大川新人 日本地域社会研究所発行

このスライドは2002年12月発行、日本地域社会研究所の発刊、「成功するNPO・失敗するNPO」というタイトルで、著書は大川新人氏によるものです。その中に日本社会の現状が説明されています。

つまり、1990年代にバブル経済がはじけて、その前までの発展経済を支えてきた政治・経済・社会の仕組みが、逆に足かせになっているのが現状だということです。さらに政府と地方自治体は大幅な財政赤字に陥っています。そこで、政府は構造改革を進めています。一方、日本の大企業は、相次ぐ不祥事に見舞われています。顧客である国民を無視し、内部の論理を優先した経営は、市民の輿論(ひんしゅく)をかっています。このような環境の中で、日本は社会的な課題が山積みされています。例えば、少子高齢化社会の到来、不登校児の増加、働くお母さんの増大、在日外国人労働者の増加、経済発展と環境保全の調和、循環型社会の構築、安全な食品の提供、中心市街地の空洞化などです。

「成功するNPO・失敗するNPO」 “現在の日本の社会的な課題”

行政や企業ではできない社会サービスを提供する、新たな担い手としてNPO法人の数が急に増加している。

著者：大川新人 日本地域社会研究所発行

次に、国際ロータリーでは2001-02年度に日本のクラブ退会者1万3,000名に対して、アンケート調査を実施しました。その結果報告の中でも特に私が印象深かったことは、次のことです。それは、会員の配偶者への質問だったのですが、配偶者の回答で最も多かったのが、「自分の配偶者や自分の親がロータリー・クラブの会員であったことを誇りに思っている」ということでした。しかし、2番目は「ロータリーにお金がかかり過ぎる」。3番目は「ロータリーに時間がとられ過ぎていた」という回答です。これらの回答は家族への気遣いが大切なことはもちろん、家族へのロータリー広報も必要なことを示しています。さらに私達のクラブが持っているこれらの問題の解決を、私達は先送りしたり、あるいは他人まかせにして、直ちに実行していなかったのではないかと思います。

「皆で魅力ある21世紀のロータリー作りを」

- RI第2840地区
ガバナー月信Vol. 12 (2004年6月)
- ガバナー 森田 均
ページ2のガバナーメッセージ
「...最近、ロータリーには魅力がないと言われて
れています。...」
- 「会員満足度アンケート」、「クラブ活力テスト」

ここに前年度のガバナー月信で「みんなで魅力ある21世紀のロータリー作りを」と強く訴えた方を紹介します。それは2840地区の森田(もりた) 均(ひとし)さんです。最終のガバナーメッセージとして、森田さんは危機感を感じて「最近、ロータリーには魅力がないと言われてい
ます。『ロータリーは楽しくない』、『ロータリーの奉仕が見えてこない』さらに『ロータリーにはステイタスがない』などです。そして、この魅力のなさが、会員の経済的理由の影に隠れた、真の退会理由になってはいないでしょうか。あえて繰り返します。私達は、今この時こそ、再び魅力あるそして21世紀におけるアップデート

なロータリー作りを目指し、創意と工夫と情熱、さらには『思いやりの心』をもって挑戦していくべきです。」と記しています。一年間、地区内の各クラブ指導に全力を尽くしてきたDGの月信第12巻での結論がこのメッセージなのです。

「会員増強」とは「組織強化」である

- RI第2840地区
ガバナー月信Vol. 12 (2004年6月)
- 地区会員増強・退会防止委員長 本田博巳
ページ8~11の投稿
「会員満足度アンケート」
「クラブ活力テスト」

同時に、その月信には本田博巳地区会員増強・退会防止委員長の原稿も掲載されています。その中の「魅力あるロータリー・クラブづくりを」という項目には、各クラブが現状や固有の問題を正確に把握し、本質的な問題解決に着手できるよう、「会員満足度アンケート」と「クラブ活力テスト」という2種類の支援ツールを開発し、各クラブに提供していることが記されていました。

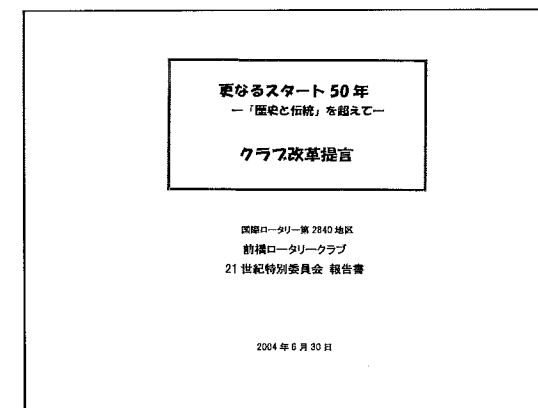
「クラブ活力テスト」

1. 理念・方針の浸透とリーダーシップ
 2. 社会貢献
 3. 魅力あるクラブづくり
 4. 効率的なクラブ運営
 5. 活動の成果
(それぞれ五つの質問よりなる)
- RI第2840地区会員増強・退会防止委員会

そこで、森田DGと本田委員長に許可をいただき、「クラブ活力テスト」を、冒頭に説明した八戸南クラブと、そのツインクラブである韓国の南浦項クラブで実施しました。本来、このテストの目的はあくまで自分のクラブの現状を、会

員が自主的に自己診断するためのチェックリストであり、他クラブと比較して順位付けを行うものではありません。そこで、韓国にこのテストを送り、説明をして自己診断してもらいました。その結果、八戸南クラブの総合評価はCレベルで、ロータリーの理念に添った活動を実施しており、一定の成果を上げていますが、一部の領域で硬直化が進み、メンバーの意識にもばらつきが見られるという判定でした。会員の平均年齢は63歳です。

これに対し、平均年齢が52歳の、南浦項クラブでは、各分野ともBレベルで、クラブ機能はほぼ発揮され、活力に満ち、効果も上げているが、一部の領域で会員相互のコミュニケーション不足が見られると判定されました。



これは、前橋ロータリー・クラブより頂いた、前年度の「21世紀特別委員会報告書」です。タイトルは「更なるスタート50年—歴史と伝統を超えて—クラブ改革提言」という62ページにわたるものです。「会員満足度アンケート」と「クラブ活力テスト」の結果及び対応策が説明されています。ぜひ、皆様も参考にして下さい。

最後になりましたが、「ロータリーの友」今年度の8月号、40ページに、「ロータリアン必携改訂版発行のご案内」が第一期クラブ強化推進委員会幹事の田中作次RI理事によって記載されています。これは、当時の菅生・田中両RI理事を中心に開発され、南園(みなみその)RI理事や重田RI理事エレクトに継がれていますが、一般会員に対して、ロータリー情報を周知徹底する目

「ロータリアン必携改訂版」

- 内容 1. ロータリーの概要
2. 四大奉仕
3. ロータリー財団
- 編集:クラブ強化推進委員会(日本)
- 発刊:2004年7月
- 定価(税込):300円

的で、日本人に理解しやすいように、しかも活用しやすいように、ロータリーの概要、4大奉仕やロータリー財団の現状をわかりやすくまとめたものです。ぜひ会員が利用して下さる様、皆様に御指導をお願い致します。また内容について意見がありましたら、私達に申し出て下さい。さらに改訂していく予定です。

まとめ

日本の社会は激変している。しかし、ロータリーの基本原理を理解して、時代の変化と地域のニーズに応じて実践し、会員一人ひとりの個性を活かすクラブ作りを、自主的に努力するならば感動が得られ、そのクラブの未来への発展につながる。

以上、この後の分科会討論会のために問題提起をしました。私なりのまとめです。確かに日本の社会は激変しています。しかし、ロータリーの基本原理の上に、時代の変化と日本と世界の地域のニーズに応じながら、私達一人ひとりの個性を活かすクラブ作りを、自主的に努力するならば、そのクラブの未来への発展につながると思います。

第4セッションではどうぞよろしく、積極的なご討論をお願い致します。ありがとうございました。